



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和6年8月29日

千里の道も一歩から 一日一日 一歩一歩

校長 石田耕太郎

パリオリンピック 2024 の日本選手団の活躍に歓声を送った今夏となりました。新しい競技における若い選手たちの躍動する姿や馬術のように長年競技を継続してきた結果をオリンピックの大舞台で開花させる姿を通して、選手たちの日々のひたむきな努力の積み重ねが感じられ感動しました。そして、その感動が冷めやらぬ8月28日、パリパラリンピック 2024 の熱戦が開幕しました。

近代オリンピック第1回大会は、1896年アテネ(ギリシャ)で開催され、今夏のパリ大会で128年(途中戦争による中止を含む)の歴史があります。では、パラリンピックはいかがでしょうか。調べてみると1948年イギリスのストック・マンデビル病院で行われた脊椎を損傷した軍人16人によるアーチェリー競技会がその原点とされています。アーチェリー競技会を開催した神経外科医であるルートヴィヒ・グットマン博士は、脊椎を損傷した患者に、「残された体を最大限に使う」リハビリを目的にスポーツを勧めました。こうした目的で行われた競技会は、その後も継続して行われ、1960年ローマ(イタリア)で開催された第9回国際ストック・マンデビル競技大会が、第1回パラリンピックとされました。近代オリンピックの開催から実に、64年後のことであり、ローマ大会から数えてパリパラリンピック 2024 は第17回大会となります。なお、「パラリンピック」という言葉は、1964年に東京で開催された第2回大会で初めて使われ、本校と同じく今年60年目を迎えました。

博士の「失ったものを数えるな。残っているものを最大限に生かせ。」という言葉は、今も確実にパラアスリートたちの心の糧となっています。私はこの言葉と出会い、誰の心の糧にもなるのではないかと思いました。私たちは誰しも得意な事、不得意な事があります。それが私たちです。苦手であることを理由にやらないのではなく、得意なことを最大限に発揮して自分や誰かのために一生懸命に挑戦する姿。その姿が自分を成長させ、周りの人に思いを伝えられるのではないのでしょうか。

この夏、昨年人生で初登頂した富士山に再び挑みました。昨年は途中でくじけそうになり、同行者に荷物をもって貰いやっとの思いで何とか頂上に立つことができました。今年は、その時の反省である、次の3点を意識しました。

- ① 自分のペースでゆっくり歩く。
- ② 途中で休憩を十分とる。
- ③ こまめに栄養補給をする。

富士山にある4つの登山ルートの中で、最も長距離となる「御殿場ルート」。標高1450mにある登山口から見ると、はるか彼方に頂上が見えています。足元は噴出された砂利や火山灰に覆われ、一歩進んでも半歩下がるような状態でした。しかし、3つのことを意識して一歩一歩と歩みを進めた結果、自らの力で日本最高峰3776mの頂上に立つことができました。この日の歩数計は43499歩を示していました。



夏休みが終わり、子ども達の笑顔が学校へ戻ってきました。日々の学校生活を通して、子ども達の良さが十分発揮でき、成長できるよう今後も努めてまいります。